

第5学年1組 学級活動（2）指導案

1 題材 「移動教室に向けてもっと仲を深めよう」

学級活動（2）

イ よりよい人間関係の形成

2 題材について

（1）児童の実態

本校の5年生は3クラス 96 名が在籍している。4年生から5年生に進級する際、クラス替えが行われたために、再編成されたメンバーである。本学級は、昨年度転校してきた児童が3名、外国籍の児童が2名、今年度で転校が決まっている児童が1名を含めた男子18名、女子14名の合計32名が在籍する。

学校教育目標「自ら考え行動し、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」のもと、学年目標「Go for it!」が掲げられた。それを受けて、本学級は「笑うクラスに福来る」を目標とし、「互いを思いやる・いじめのない・学んだことを生かす」学級を目指している。そして学級目標にある「笑う」は真剣・全力の先に待っていること、クラスみんなが本当に笑顔になれることなのかを繰り返し児童たちと確認してきた。

学級の実態としては、前期の教育実習生との関わりが5年1組を象徴していると考えている。「実習生がはやく5年1組に慣れてほしい。」という児童の発言から、歓迎会を開催した。「名前を覚えてもらったほうがいいのではないか。」や「やっぱり楽しいクラスと思ってもらいたい。」等という意見が開催の目的となった。「立派な先生になってほしい。」「寂しいけど、5年1組の先生だったことを忘れないでほしい。」等の児童の意見からお別れ会も開催した。それぞれの会では、「実習生に見つからないように」を合言葉に、自分の役割に友達と協力しながら、取り組んだ。最後には、ほとんどの児童と実習生が涙を流すお別れ会となった。一人一人の願いがクラスとしての思いになり、協力することで形が変わることや、誰かのために物事を考えて行動することのよさ実感してきたクラスである。10月の中旬には校外学習があり、11月の初めには移動教室が予定されている。新たな目標をもち、友達と協力して活動を主体的に取り組めるように支援していきたい。

（2）題材設定の理由

児童は毎日の学校生活や放課後に友達との関わりを広げたり深めたりしている。学級目標にもあるように、誰もが楽しく生活したい、時には辛いことがあっても仲間や学級で乗り越えた先に達成感や成長があると感じている。どの児童も決して心の中では、「関わりを失敗させたい。」や「うまくいかないためには。」と思っているわけではない。ただし、これまでの人間関係や、学んできた人との関わり方、児童自身の情緒的な面から、トラブルやうまくいかないことは必ず起きてしまう。一生懸命になればなるほどお互いの思いが先行し、ぶつかることもある。

本学級でも、友達との関係の中でうまくいかないことやトラブルが夏休み前と夏休み明けからみられることが増えてきた。事後の指導として、個人で事実を確認し、反省点を考えたり、学級の問題としてどうしたらよいか話し合ったりすること続けてきた。しかし、友達との関係をよりよくしたいと考えてはいるがついついトラブルになってしまう。自分のことではないから、関係ないし、関わらないでおいこうといった雰囲気が見られるようになってきた。

とは言え、これらのことは決して悪いことではない。なぜなら、児童一人一人が異なった生活経験や目には見えない考え、特性をもち学級で生活しているからだ。うまくいかないことは当たり前である。ただ、学級の中でうまくいかないことやトラブルが続くと、それは楽しい・安心できる学級とはかけ離れてしまってくる。相手のネガティブな言動や考えを否定するのではなく、「どうして。」と相手の背景を考え行動に移すことは、様々な特性をもつ児童がいる学級という集団の中で、人間関係をよりよくするきっかけになると考え、本題材を設定した。

本題材は、小学校学習指導要領 特別活動 学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の以下の内容を受けて計画した題材である。

イ よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。

学習指導要領解説特別活動編では、この内容において育成を目指す資質・能力の例として「友達と関わる過程を通して自己理解を深め、互いに協力し合って温かな人間関係を形成しようとする態度を養うこと」とある。

よりよい人間関係を形成するために、本題材では3つのステップが必要であると考えた。一つ目は課題を認識することである。人との関わりの中でうまくいっていないこと（課題）にあえて目を向けさせ客観的に捉えることでまず自己理解を育てる。加えて、学級の課題として全体で考えることを通して、クラスの課題は自分に関わる課題であると、クラスの一員としての所属感や連帯感を持てるようにしたい。二つ目は課題を追求することである。「どうして～になってしまうのか。」「本当にしたいことは何か。」と課題を追求することを通して、相手の立場に立って考える他者理解や目指すべき姿の確認を行う。3つ目は課題に対して解決策をもち、実践し振り返ることである。具体的に自分だったらどうするか、行動を明確にしていく。短期的に振り返りを行い、何かを意識して人と関わるができるようにしていく。

今回の題材を通して、これまでの人との関わり方の見方を変えて、残りの5年生の期間を粘り強く学級全体がよりよい人間関係を目指すことができたのなら、そのことが5年1組のどの児童にとっても楽しく安心できる居場所になると考える。そうすることで、来年度最高学年となったとき、活動や関わりの範囲を広げ、学校全体のことも考えることができる自主的、実践的態度をもった児童の育成につながっていくだろう。

3 研究主題とのかかわり

研究主題・研究仮説は以下の通りである。

研究主題

「自主的、実践的に活動し、生きる力を身に付けた児童生徒の育成」
—主体的・対話的で深い学びの実現を通して—

研究仮説

- (1) 学級活動等の集団活動において、集団の実態を踏まえ、一人一人の児童生徒の課題意識や役割分担を明確にし、活動の過程を具体的につかませ、主体的に活動に取り組ませれば、児童生徒の集団への帰属意識や活動での達成感が高められ、自主的、実践的態度が育つであろう。
- (2) 学級活動等の集団活動において、課題の設定・確認、解決方法の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、育成すべき資質・能力を明確にした上で意図的・計画的に指導に当たれば、深い学びにつながるだろう。

本題材では、(2) を取り入れる。

- ・研究の視点 (2) 対話的な学びを充実させる手立て

○児童が考える自身の課題をイメージ化する。

課題の中には、「暴言」「悪口」「馬鹿にする」等、言葉だけを見ると、人を傷つける強い言葉が存在する。これらの課題を児童が言葉のみで選ぶと、「自分は～をしてしまう人だ。」と自己肯定感を大きく下げたり、周りの人から「あの子は、～する人なんだ。」と言葉が先走りし相手のことを決めつけたりする可能性があると考えた。そこで、心理学にある「問題の外在化」の手法を用いる。アンケートをもとにでた課題を児童がキャラクターにし、名前を付けることで、課題を児童から一旦切り離して捉えることができるようにする。これによって、課題に対してネガティブな思いではなく、客観的に課題について解決策を考えることができるのではないかと考えた。

イメージ化したキャラクターは決して消えたりいなくなったりするものではない。児童の中で場や人、心の発達に伴い変化するもので、常に向き合っていくべき特性であるからだ。本時では、「見つける」では、キャラクターが本当は何がしたいのか、その原因は何か追及していく。原因を詳しく知ることを通して、児童がどのような行動をすればよいか具体的な解決策を見つけていきたい。また、キャラクターを掲示しておくことで、児童も教師も人間関係において本当に目指すべき望ましい価値は何か問い直せるようにしていく。

○考えの焦点化

自己に合った実現可能な解決方法を考えていくために、児童が考える内容を3つ「どんなことが?」「本当は?」「解決策」に焦点化する。本学級には、外国籍の児童や障害のある児童も在籍している。どの順番で何を考えればよいか、ワークシートに思考の流れを記すことで、どの児童にとっても具体的な解決に向けた考えを整理しやすくし、意思決定の手助けとなるようにしたい。また、振り返りの際に新しい場面や解決法を見つけたら追記できるようにすることで、一連の過

程がサイクルとなるようにする。

4 第5学年及び第6学年の評価規準

観 点	よりよい生活を築くための 知識・理解	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよ りよくしようとする態度
評 価 規 準	自己の良さを生かしなが ら自己実現を図るために必 要な知識や行動の仕方を身 に付けている。	よりよい人間関係を築く ための解決方法を考え、話し 合うことで、自己の良さを生 かした意思決定をし、主体的 に活動しようとしている。	よりよい人間関係の形成に 向けて目標をもって努力し、 他者と協働してよりよく生き ようとしている。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○アンケートに記入す る。 ○課題についてイメージ 化をする。	・学級目標に対して、友達との関わり方でうまくいっていないことやなりたい自分について考えるように知らせる。 ・課題がどのようなものかわかりやすくなるように名前とイラストをかくことを伝える。	よりよい人間関係の形成に向 けて、主体的に行動しよう としている。【主体的態度】

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

友達とよりよく関わるための自分の課題を知り、これからどのように解決していくかを意思決定する。

(2) 児童の活動計画

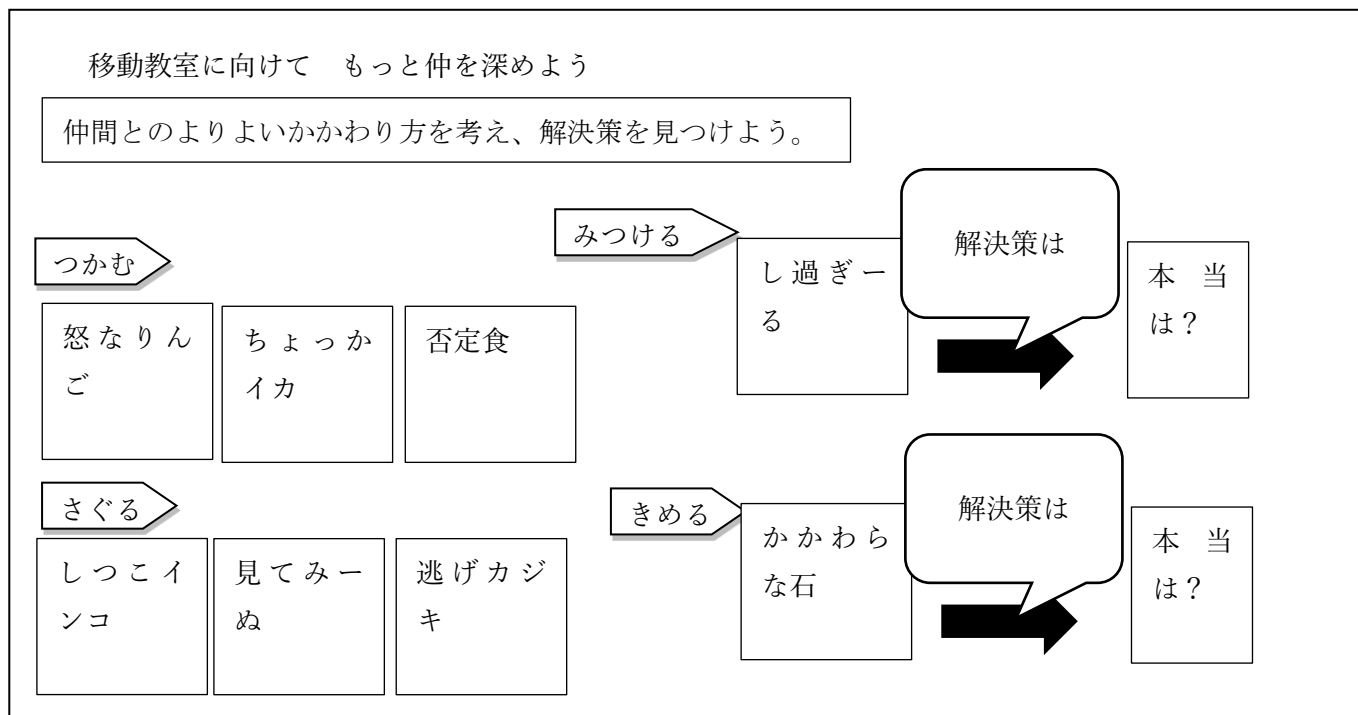
	児童の活動	指導上の留意点	資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導 入 つ か む 7	1 イメージ化した掲示物を見て、課題を把握する。 ・怒鳴る ・否定する ・ちょっかい ・しつこい ・めんどくさがる ・見て見ぬふり ・にげる 2 課題を分類し、どのような課題への解決策を考えていくか確認する。	・登場するキャラクターはあくまでクラスにいるものであり、だれか個人に当てはめるものではないことを伝える。 ・課題が人と関わっているかどうかに着目させ、仲間分けを促す。	イメ ー ジ 化 し た 掲 示 物	

展開 さ ぐ る 10	3 原因の追究をする。 ① どうして、～な行動をしてしまうか場面ごとに分けて考える。 ・ ② 本当は何がしたかったか、具体的な行動場面をもとに考える。 ・ 伝えたかった ・ 仲良く遊びたかった ・ ルールを確認したかった。 ・ 声を掛けて助けたかった。	・ 掲示物の行動に着目させることで、見通しがもてるようにする。 ・ 席の近くの人と考えてよいことを伝える。	ワークシート	・ 課題の関係性や背景について考えている。 【思考・判断・表現】 〈観察・ワークシート〉
	仲間とのよりよいかかわり方を考え、解決策を見つけよう。			
見 つ け る 20	4 課題について解決策を考える。 ① 一人で考える。 ② グループで意見を膨らませる。 まとめたことをジャムボードに入力する。 ③ 全体で共有をする。	・ 考えることに困っている児童には、具体的な場面を限定的に伝え、何を考えるか明確になるようにする。 ・ 友達の意見は色を書いて記すように促し、意見の広がりをつめることができるようにする。 ・ ジャムボードを用いることで、意見の集約を視覚化できるようにする。	ワークシート ギガタブ	・ 課題の解決に必要なことを伝えあい考えている。 【思考・判断・表現】
終 末 決 め る 8	5 話し合ったことをもとに、これからどのように課題に対して取り組んでいきたいかを意思決定し、ワークシートに記入する。 ・ 相手はどうしたいのか確認してから関わってみる。 ・ やっぱり困っていそうだったら聞いてみる。 ・ 一人では難しかったら先生に相談してみる。	・ 「見つける」の場面で出た具体的な行動を取り上げることで、実現可能な意思決定を行うことができるようにする。 ・ 実際に、行動し振り返りをしていくことが大切であることを伝える。	ワークシート	◎これからどのように課題に対して取り組んでいくのかを意思決定している。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】＜評価方法＞
○自分の意思決定したことが実践できているか2、3日ごとに振り返り、ワークシートに記入する。 ○振り返った内容を友達と共有し、自他の頑張りを認め、称賛し合う。	・本時のワークシートを教室に掲示し、常に見たり、意識したりできるようにする。 ・振り返った内容について、帰りで共有することで友達の頑張りを知ったり、自分の行動に自信を持ったりできるようにする。	なりたい自分に向けて、学級や学校生活の充実・向上のために、主体的に行動しようとしている 【主体的態度】 ＜ワークシート＞

8 板書計画



9 資料（ワークシート、自己評価シート）

名前（ ）	
移動教室に向けて、友達との仲を深めよう。	
キャラクター名:	
③解決さくは？	
①どんなことが？	②本当は？
➡	

キャラクター名:	
③解決さくは？	
①どんなことが？	②本当は？
➡	

移動教室に向けて
友達との仲を深めよう。

名前

①わたしが決めた友達とのかかわり方。

②自分の立てためあてをどれくらい達成できましたか。(◎・○・△)

10月20日	10月25日	10月27日

③行動を振り返って、できるようになったことや、これからも続けていきたいこと。

先生から

--